

## 研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<b>&lt;研究課題名&gt;</b> 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究
<b>&lt;研究機関・研究責任者名&gt;</b> 日本大学医学部附属板橋病院 精神神経科 (研究責任者)金子宜之
<b>&lt;研究期間&gt;</b> 承認日        ~        西暦 2025 年 12 月 31 日
<b>&lt;研究の目的と意義&gt;</b> 精神科医療においては、薬物療法と心理社会的療法がその両輪ですが、その実践については、臨床家ごとのばらつきが大きく、よりよい医療を普及させることが必要とされています。例えば、代表的な精神疾患の一つである統合失調症においては、抗精神病薬の単剤治療を行うことが海外の各種ガイドラインで推奨されていますが、本邦では諸外国と比較して突出して抗精神病薬の多剤投与が多く薬剤数が多いことが知られています。2011 年の日本精神神経学会においては、統合失調症における多剤療法の問題が取り上げられたシンポジウムが行われ、抗精神病薬の多剤併用率が 65%程度であり、抗パーキンソン薬、抗不安薬/睡眠薬、気分安定薬の併用率もそれぞれが 30-80%と高いことが報告されました。そして、2014 年には、向精神薬の多剤処方に対する診療報酬の減額がなされました。 本邦においては、統合失調症の薬物治療ガイドラインが 2015 年 9 月に日本神経精神薬理学会より発表されました。このガイドラインは、精神科分野においては本邦初の Minds 法を用いたエビデンスに基づいたものです。統合失調症においては抗精神病薬の単剤治療を行うことを明確に推奨しており、学会のホームページにて無料でダウンロードできるようになっています。また、うつ病学会においては、うつ病の診療ガイドラインを発表しており、これらも学会のホームページにて無料でダウンロードできます。 このような状況にもかかわらず、まだこれらの診療ガイドラインが十分に普及したとはいえない現状があり、よりよい精神科医療を広めるための工夫が必要であると考えられています。そこで、本研究においては、ガイドラインの普及と教育を行うために、ガイドラインの講習を、若手の精神科医を対象に行うことにより、その効果が得られるかどうかを検討することを目的とします。本研究にて講習を行うこと自体によってガイドラインの普及が進み若手の精神科医により適切な治療の教育が行われ、その結果として、より適切な治療が広く行われるようになることが期待できます。また、教育効果を検証することにより、さらに効果的な講習の方法論が開発され、精神科医および精神科医療にかかわるパラメディカルスタッフへの生涯教育法の開発や当事者

やその家族への教育にもつながる可能性があります。

#### <利用する試料・情報の項目>

一般診療で行う範囲内の情報であり、年齢、性別、診断などの基本情報、処方データ、治療方法、症状データ等

#### <対象となる方>

- ・精神科医としての経験年数が10年以内
- ・精神科医としての経験年数が10年以上であってもガイドラインに基づく講習を受け精神科医療技術の向上を目指すもの
- ・自身が治療を行った患者さんの処方などの情報を提供することができるもの

#### <研究の方法>

ガイドラインの講習を各大学や医療機関で治療を担当する医師である若手精神科医を主な対象に行い、各医療機関において、経年的に入院患者や外来患者に対する治療行動を経年的に観察し、講習による変化の検討を行います。統合失調症の薬物治療ガイドラインとうつ病ガイドラインに関する講習は、それぞれ1日間で、各地域で1年間に一回行います。午前中はガイドラインの内容に関する講義、午後はグループに分かれて症例を用いたグループディスカッションを行います。主にガイドライン作成メンバーが講習の内容の作成を行い、それぞれのガイドライン作成委員会で承認されたものを用いて、講習を行います。また、それぞれのガイドラインの講習は、1年間に一回全国の各地域で行い、原則的には一人の被験者(精神科医)の受講は一回としますが、意欲があり希望する方には、複数回受けることも可能といたします。

ガイドラインを学ぶ意欲やその理解度について、講習時に質問紙を用いて記名アンケートを行い各被験者からデータを収集し、講習当日に回収し、講習責任者がそのデータを大阪大学に送付します。また、講習を受けた被験者に対して、長期的に質問紙を用いた記名アンケート調査を行い、大阪大学にデータを送付し、学習した治療行動が維持されるかどうかを検討します。ここで得られた意欲や理解度と、治療行動の変化との関連を検討します。このような被験者の情報は大阪大学において、連結可能匿名化されて、解析されます。

なお、実際の治療に関しては、それぞれの研究対象者である医師の裁量で行うものであり、特定のプロトコルに従った治療を行うものではありません。治療の内容は、その医師の判断だけでなく、その医療機関において可能な治療手法や、指導を行う上級医師やカンファレンスによる指導も大きく影響するものであると考えられ、それに対する介入は行いません。収集する患者情報は、一般診療で行う範囲内の情報であり、年齢、性別、診断などの基本情報、処方データ(単剤治療、ガイドラインで推奨されていない向精神薬の処方など)、治療方法(修正型電気けいれん療法やクロザピン治療など)、症状データ(精神症状評価:陽性・陰性症状評価尺度、ハミルトンうつ病評価尺度、機能の全体的評定尺度など)、担当医師名などになります。このような患者情報は、各医療機関において連結可能匿名化され、大阪大学に送られて、解析されます。

#### <外部への試料・情報の提供の方法>

共同研究機関にデータを提供する場合には、匿名化した情報を、パスワードをかけた電子ファイルを用いて電子的配信等の方法で提供します。対応表は、研究責任者が保管・管理します。

## <研究組織>

国立精神・神経医療研究センター病院・橋本亮太(研究代表者)  
九州大学大学院医学研究院 精神病態医学・鬼塚俊明  
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院・宇佐美政英  
東京大学医学部附属病院 精神神経科・市橋香代  
社会医療法人如月会 若草病院・水野謙太郎  
かつもとメンタルクリニック・勝元榮一  
横浜市立大学附属病院・浅見剛  
横浜市立大学市民総合医療センター・六本木知秀  
兵庫医科大学病院 精神科神経科・山田恒  
JA 三重厚生連 鈴鹿厚生病院・山村哲史  
鳥取大学 医学部 脳神経医科学講座精神行動医学分野・岩田正明  
山梨県立北病院・野田北斗  
医療法人フォスター 生きる育む輝くメンタルクリニック 梅田本院・安田由華  
医療法人松崎病院豊橋こころのケアセンター・竹澤健司  
岩手医科大学 医学部 神経精神科学講座・福本健太郎  
国立病院機構琉球病院・久保彩子  
独立行政法人国立病院機構榊原病院・村田昌彦  
新潟大学 大学院歯学系総合研究科 精神医学分野・福井直樹  
秋田大学大学院医学系研究科 精神科学講座・竹島 正浩  
獨協医科大学病院・古郡規雄  
神奈川県立精神医療センター・田口寿子  
岐阜大学医学部附属病院 精神科・大井一高  
医療法人明和会 琵琶湖病院・石田展弥  
東京女子医科大学 医学部 精神医学講座・稻田健  
大阪大学医学部附属病院 神経科・精神科・藤本美智子  
愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座・伊賀淳一  
京都大学医学部附属病院 精神科神経科・諏訪太郎  
学校法人 東邦大学 医学部 精神神経医学講座・根本隆洋  
名古屋大学 大学院医学系研究科 精神医学分野・尾崎紀夫  
北里研究所 北里大学医学部精神科学・宮岡等  
東北大学病院 精神科・小松浩  
金沢医科大学 精神神経科学・長澤達也  
奈良県立医科大学 精神医学講座・岸本年史  
山口大学医学部附属病院 精神科神経科・山形弘隆  
弘前大学医学部附属病院 神経科精神科・橋本浩二郎  
神戸大学大学院 医学研究科 精神医学分野・蓬莱政  
慶應義塾大学 医学部 精神・神経科学教室・岸本泰士郎

信州大学 医学部附属病院 精神科・中村敏範  
杏林大学 医学部 精神神経科学・渡邊衡一郎  
産業医科大学 医学部精神医学・吉村玲児  
昭和大学 医学部 精神医学講座・山田浩樹  
筑波大学附属病院 医学医療系 臨床医学域 精神神経・新井哲明  
日本大学 医学部精神医学系・金子宣之  
北海道大学大学院医学研究科 神経病態学講座精神医学分野・橋本直樹  
滋賀医科大学 精神医学講座・尾関祐二  
東京医科大学 精神医学分野・井上猛  
徳島大学医学部医歯薬学研究部 精神医学分野・沼田周助  
富山大学附属病院 神経精神科・木戸幹雄  
福岡大学 医学部精神医学教室・川寄弘詔  
福井大学医学部附属病院 神経科精神科・上野幹二  
東京都立多摩総合医療センター 精神神経科・玉井眞一郎  
日本医科大学 精神医学教室・増岡孝浩  
社会医療法人北斗会さわ病院・渡邊治夫  
宮城県立精神医療センター・上田一気  
近畿大学病院 精神神経科・柳雅也  
自治医科大学 精神医学講座・岡田剛史  
埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科・松尾幸治  
東海大学 医学部 総合診療学系 精神科学・山本賢司  
浜松大学医学部附属病院 精神科神経科・和久田智靖  
東京慈恵会医科大学 精神医学講座・小高文聰  
琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座・高江洲義和  
医療法人杏和会阪南病院・松島章晃  
富山市立富山市民病院・木戸幹雄  
山形大学医学部附属病院・白田稔則

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

精神神経科 氏名:金子宣之

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2431 (PHS)8889